

【学校だより号外版】

2021全国学力・学習状況調査の結果から

R3.9.13 荒尾市立府本小学校

（総括）

- 本校6年生の本調査における結果は、国語は「良好」算数は「もう一歩」でした。
- しかしながら、一人一人の課題は異なっていますので、その点、今後の授業や家庭学習において、個別の指導を充実させていきたいと考えています。
- また、これまでに積み上げてきた国語や算数の基礎的・基本的な内容をもう一度おさらいしながら、それらを組み合わせて考える問いにもきちんと向き合うことができるように、指導していきたいと思えます。

（課題が見られた問題から）

- \* いちばんでできなかったのは、平行四辺形の面積を求めるのですが、それを式や言葉であらわす問題でした。わかっている、筋道を立てて言葉にすることができるかどうか問われました。

平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形A B C Dの面積を求めます。

辺B Cを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、**平行四辺形A B C Dの高さをどのように求めたのか**がわかるようにしましょう。

また、平行四辺形A B C Dの面積が何  $\text{cm}^2$  になるのかも書きましょう。

- 平行四辺形の面積の公式は、底辺×高さ。
- 高さ6 cmの平行四辺形を2つ積み上げているの形なので、平行四辺形A B C Dの高さは6 cm×2となる。
- よって、底辺は5 cmで、高さは12 cmだから、 $5 \times 12 = 60$ で、面積は60  $\text{cm}^2$

（正答例）

○求め方と面積

辺B Cが底辺（5 cm）となり、高さはもとの平行四辺形の2倍だから、 $6 \times 2 = 12$ で、12 cm。よって、平行四辺形A B C Dの面積は、底辺×高さで $5 \times 12 = 60$ 。面積は60  $\text{cm}^2$ です。